

安息所であり外に對しては資本家階級と三聯の既成支配階級を戰慄せしめる重大なる使命を負つて編輯員一同は眞に九州の勞働者の新聞としてその健全なる發展と經營に精勵してゐる。茲に編輯員の精進に常に熱烈なる協力を賜つてゐる誌友諸氏の芳名を列ねてその努力を深謝する。

九州勞働新聞誌友芳名

木下善市(日本港灣従業員組合關門支部) 飯島林次郎(日本海員組合門司支部) 白木清三(セメント勞働組合門司支部) 久保田長一郎(日本海員組合戸畑支部) 黒木松三(日本港灣従業員組合戸畑支部) 土田保一(海員協會若松出張所) 安日新(社會大衆黨八幡支部) 黒木本造(社會大衆黨戸畑支部) 谷口友太郎(日本製鐵従業員組合) 元阪順次(總同盟直方出張所) 宮崎太郎(日本石灰坑夫組合) 伊藤卯四郎(日本勞働總同盟九州聯合會)

四、國際勞働代表一行の觀送迎

本年度の國際勞働總會勞働代表顧問は共に我が九州聯合會と直接關係ある總同盟東京聯合會會長原虎一氏と日本製鐵従業員組合長(九州地協委員長)加藤良左衛門氏が選任されたのであつた。日本の全勞働大衆の利害を代表して遠く壽府で健戰する勞働代表の勞を隔らひ、その行を壯にするため、例年の如く九州地方協議會と相諮り、勞働代表一行の關門通峽に當つて多數の組合員を門司早頭に動員し、政府代表、使用者代表の歡送迎を完全に壓倒する大衆デモを以て勞働代表一行の故國最後の船出を飾つた。

日本勞働組合會議に關する報告

日本勞働組合會議第四回年度大會決議

時日 昭和十年九月二十九日 會場 於神戸市 日本海員會館

産業及勞働の統制に關する決議

決議

今日の世界の資本主義の行詰りは必然に其の經濟機構の變改を招來し、産業及勞働に對する國家的統制は今や世界の風潮となりつゝある。由來自由主義の傳統を誇る米國に於てすら産業復興法の實施を見たるが如き此の趨勢を實證するものである。然るに我が國社會の實情を見るに近時の軍需インフレーション並に輸出産業の跛行的好況は、徒らに内は勞働強化による資本の專横を恣にし外はソシアリズム問題を中心に関稅障壁による日貨排斥となり、又物價騰貴により國民の生活は極度に脅やかされるに至り、一般産業の不況による失業者の増加は農村の窮乏と相俟つて益々現在經濟組織の矛盾と缺陷を深刻化せしめ、眞に國家非常時を現出しつゝある。而して此の現下の國家非常時を打開するの道は茲に健全なる國民經濟を再建し、國民生活の安定を計る事が急務なりと信ず。其のためには國家の産業及勞働の統制政策を根本基調とし、産業に適正なる統制を加へ、資本の不當なる搾取を抑制すると共に、勞働に統制と規律を與へ、進んで産業協力の實を擧ぐる事が絶対に必要である。且つ現今の世界の情勢並に經濟組織の行詰りは、凡ゆる問題の個別的の解決を許さざるものあり、國家的大局に立つて、全面的解決を要求しつゝある。吾等は此の見地に立ち、本大會に於て左の如き要綱に基く産業勞働統制に關する對策を決議す。政府は速やかに左記要綱を實施すべし。

産業及勞働に關する要綱

- (一) 勞働行政
 - 産業勞働省を新設し、關係行政事務の統一を圖り、更に勞働、企業兩者代表を主とする諮問委員會を設け、産業及勞働の統制基調を置く學國的協力を實現すべし。
- (二) 産業統制
 - (イ) 重要産業並に大産業は國營若くは國家管理を終局目標とし、公益の精神に則りて指導監督を行ひ之を統制すべし。